

nakatsu manabu tuusin

# 中津学通信

伝えよう！  
広げよう！  
中津の学び

平成29年11月27日発行  
中津市教育委員会  
学校教育課  
TEL:22-4941 FAX:22-1492

小楠小学校 寺嶋教諭(体育専科教員) 体育科の実践 ~4年生~

- 単元名 「器械運動」跳び箱(台上前転)
- 単元の目標
- 跳び箱運動の楽しさに触れ、基本的な支持跳び越し技ができるようにする。(技能)
  - 進んで運動に取り組み、きまりを守り仲良く運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。(態度)
  - 自己の能力に適した課題をもち、技が出来るようにするための活動を工夫できるようにする。(思考・判断)

- 授業のポイント
- 先生の指示を受けなくても、子供が自ら運動を進めていける手立てがたくさんある。
  - 子供の運動する時間がたくさん保障されている。
  - 目あてとポイントを示し、目的意識をもたせ、振り返りの時間も確保している。

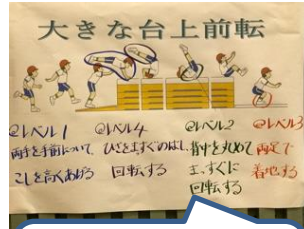
■授業の実際



主運動(台上前転)につながる動きを、一斉に行います。



目あてや、台上前転のポイント、子供の試技をスクリーンで提示します。



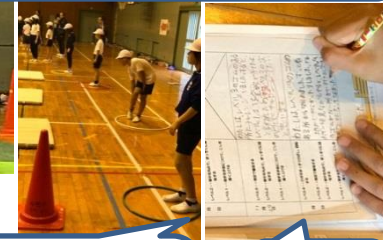
「大きな台上前転」のレベルを4つに分け、それぞれのレベルの内容を、体育館に掲示しています。



タブレットで、自分の試技の確認をしています。



ゴム紐をはって、腰の位置を意識しながら回転できるようにしています。



試技を終えた児童はフラフープに待機し、次の児童の試技を見て、アドバイスをします。

「振り返り」を記入します。

■事後研で話題になったこと

- 「フラフープを置く」ことで、試技を終えた子供がフープに入り、次の人にアドバイスをするという活動を生み出すことができた。タイマーのブザーの音に合わせて試技を繰り返したり、自分の試技をタブレットで見直したりして、先生が指示を出さずとも子供自ら次々と動ける場が設定されていた。
- 目当てや動きのポイントなどを最初に示し、やることが明確になり多くの子供が1時間を通して自主的に運動を続けることができた。
- 教師がICT機器を用いて動画で子供の動きを示し、振り返らせてねらいとする動きをイメージすることができていた。
- 主運動に至るまでの流れ(準備体操など)が、日々の実践の中でよく子供達に意識付けられていた。
- △まだ教師の言葉を減らし、子供の活動を増やせる要素がある。
- △助走をスタートする位置や踏切板とロイター板を選択するなど、子供が思考したり判断する場を設けることもできたのではないか。
- △振り返りは子供達もよく書けていたが、「きれいな台上前転をしよう」という目当てに対する振り返りを行う必要があった。また、「きれいな台上前転」とはどういうものなのか視点をはっきりさせておく必要があった。
- △「アドバイス」はよい取り組みだが、フラフープ内でアドバイスする際、アドバイスのポイントをしぼる、待機児童は気づいた事を付箋に書いておいて渡す、などの活動も仕組めたのではないか。



今回寺嶋教諭は、運動量をたくさん保障するための場を設定したり、工夫を取り入れたったりした授業を行った。そのため教師が細かい指示や合図を出さなくても、子供が自ら動いていた。そのことも、運動量の保障につながっていた。そして「運動あって学びなし」にならないよう、子供の目的意識をしっかり持たせるように、目当てや動きのポイントを意識づける導入や振り返りの時間も保障されていた。「運動量を保障する」ことを中心にするだけでなく、運動する楽しさを味わわせ、とねらいとする動きに近づくような手立てがたくさんあった授業であった。